【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成17年9月8日(2005.9.8)

【公開番号】特開2000-212015(P2000-212015A)
【公開日】平成12年8月2日(2000.8.2)
【出願番号】特願平11-17826
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｋ　6/00
　Ａ６１Ｋ　6/08
　Ｃ０９Ｊ　5/02
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｋ　6/00　　Ａ
　Ａ６１Ｋ　6/08　　Ｈ
　Ｃ０９Ｊ　5/02

【手続補正書】
【提出日】平成17年3月15日(2005.3.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
本発明において、プライマー組成物は、歯面に塗布した後、歯科用エアーシリンジにて乾燥することにより極めて薄い層になることから、プライマー中に重合開始剤は必ずしも必要ではないが、プライマー組成物を乾燥する際、術者がプライマー組成物を極端に多く残してしまった場合などは、硬化性が低下し、接着強度が低下する恐れがあるため、プライマー組成物に重合開始剤を配合した方がより望ましい。重合開始剤としては、公知の光重合開始剤および／または化学重合開始剤を配合することができる。光重合開始剤としては、例えば、本発明のボンディング組成物に必須であるアシルホスフィンオキサイド系の光重合開始剤および／またはα－ジケトン系の光重合開始剤が好適に用いられるが、ケタール類、チオキサントン類等の光重合開始剤を使用することも可能である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２７】
本発明のボンディング組成物において、光重合開始剤として使用されるアシルホスフィンオキサイド化合物およびα－ジケトン化合物の具体例としては以下のものが挙げられる。アシルホスフィンオキサイド化合物としては、例えば、２，４，６－トリメチルベンゾイルジフェニルホスフィンオキサイド、２，６－ジエチルベンゾイルジフェニルホスフィンオキサイド、２，６－ジメトキシベンゾイルジフェニルホスフィンオキサイド、２，６－ジクロロベンゾイルジフェニルホスフィンオキサイド、２，３，５，６－テトラメチルベンゾイルジフェニルホスフィンオキサイド、ベンゾイルジ－（２，６－ジメチルフェニル）ホスホネート、２，４，６－トリメチルベンゾイルエトキシフェニルホスフィンオキサイドおよび特公平３－５７９１６号公報に開示されている水溶性のアシルホスフィンオキサイド化合物などが挙げられる。α－ジケトンとしては、カンファーキノン、ベンジル、２，３－ペンタンジオンなどである。

【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３６】
本発明においてボンディング組成物に使用される酸性基を有する重合性単量体は、歯質および修復物に対する接着性を確保するための必須成分ではないが、より接着性を高めるために、配合された方が望ましい。かかる酸性基を有する重合性単量体は、本発明のプライマー組成物に使用される酸性モノマーと同じものが該当する。中でも、リン酸基を有する重合性単量体を配合したボンデイング組成物は、歯質あるいは金属、レジンおよびポーセレン等の修復材料に対する接着強度に優れるので、好ましい。これらの酸性基を有する重合性単量体の配合量は、ボンディング組成物全体に対し、通常０．１重量％～５０重量％の範囲、好ましくは１重量％～３０重量％の範囲で使用される。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３７】
本発明のボンディング組成物は、操作性、塗布性、機械的強度の改善のために、フィラーを配合してもよい。かかるフィラーは、プライマー組成物に配合されるフィラーと同一である。これらのフィラーは、単独または数種類を組み合わせて配合され、ボンディング組成物全体に対して、４０重量％以下、好ましくは２０重量％以下の範囲で添加される。より好ましくは平均粒径０．１μｍの以下のコロイダルシリカが挙げられる。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４０】
また、例えば、口腔内にて修復材料が破折した場合では、金属、陶材、コンポジット硬化物などの歯質以外の材料に対しても使用することができ、さらに、市販の歯科用金属接着プライマー、歯科用陶材接着用プライマー、酸エッチング剤、次塩素酸塩含有の歯面清掃剤と組み合わせて使用してもよい。